

2020年度事業計画書(案)

2020年4月1日から2021年3月31日まで
特定非営利活動法人アフリカ日本協議会

1 2020年度事業の方針

<p>2019年度の活動を引き継ぎ、本法人として定款で定めた目的を達成するため、広範な市民との協力関係のもと、必要な事業を行っていく。</p> <p>①日本に住むアフリカにルーツを持つ子どもたちによる活動を、アフリカキッズクラブおよび在日アフリカ人との連携協力事業で実施する。</p> <p>②NGOのネットワークに参加し、TICAD8(2022年開催予定)を含め、アフリカに関わるNGOや各分野の専門家等とセクターを超えて連携を促進する。</p> <p>③アフリカ熱帯林の課題に関し、昨年度までクラウドファンディングを通して行った活動を引継ぎ、野生生物保全および日本での啓発事業を進める。</p> <p>食料の安全保障に関する学習会を継続するとともに、他団体とも協力して「世界食料デー」の取組を行う。国際保健など政策提言に取り組むための調査を行う。</p> <p>④主権や自己決定権を求めるアフリカの人々の取り組みに協力し、TICADプロセスを含む、日本政府の外交・国際協力政策への提言を行う。</p> <p>⑤各種イベントの実施・参加、ウェブサイトの更新、『アフリカNOW』の発行等を通して、アフリカ理解促進のための発信を行う。</p> <p>●組織体制を見直し、理事会に委員会制を導入して運営上の課題を整理し、上記事業の円滑な執行、活動の活性化を図る。</p>

2 事業の実施に関する事項

	計画	期待される成果	予算(千円)
①アフリカ支援事業	アフリカにルーツを持つ子どもを対象とした「アフリカキッズクラブ」を運営し、アフリカ文化に触れ、交流するイベントを開催する。他団体の企画やフェスティバルなどにも積極的に参加する。アフロビーツダンス、ピクニック、Zoomでのオンラインイベントなどを開催する。	交流イベントを通して子ども同士・保護者同士の関係づくり、アフリカへの理解を深める機会を作ることができ、アフリカにルーツを持つことをよりポジティブに考えていけるようになる。また、活動を伝え、多様性を尊重する社会づくりへの貢献がなされる。	800
	首都圏以外での活動として昨年度から始まった「アフリカキッズクラブ東海」(東海3県のキッズ対象)を展開させ、イベントの実施、他団体との連携、首都圏のキッズとの交流を行う。	アフリカキッズクラブの経験を活かし、東海3県のアフリカにルーツを持つ子どもたちが楽しめる場を作り、全国各地で活動を広げるモデルとなっている。	
	ユースが主体的に運営する「アフリカユースミートアップ」で、イベント(毎月開催、Zoomも活用)やSNSなどで思いや経験を共有し、差別や偏見のない社会づくりに向けても発信していく。	アフリカにルーツを持つユースが、互いに高め合い、自信を持って自分らしく生きられるようになる。リーダーシップを高め、差別や偏見のない社会へと変革していく主体が形成される。	
	在日アフリカ人コミュニティと交流・連携し、日本社会におけるアフリカ理解の促進、サポートや情報が必要な在日アフリカ人への支援を行う。	日本でのアフリカ理解促進、多様な社会づくりで在日アフリカ人が重要なアクターとなり、互いに理解し、共に楽しみ、支え合う関係作りが広がる。	
	なんみんフォーラムや移住連に参加する他の団体と連携を取り、人権擁護、政策提言、生活に課題を抱える難民・移民への支援を行う。	母国の文化・状況を理解した上で難民・移民を支援し、友人となるような関係作りができる。また、他団体にアフリカに関わる情報が提供される。	
②ネットワーク形成事業	ネットワークとして活動するJANIC、SDGs市民社会ネットワーク、GII/IDI(*1)・NGO連絡会等に参加し、アフリカと日本の市民社会の連携・協力の強化、アフリカの抱える課題の解決に必要な取り組みを促進する。	分野やテーマ別のネットワークに積極的に参加し、取り組みを担うことで、ネットワークの活動が維持・更新され、市民団体としての連携した活動が強化される。	480
	「TICAD NGO連絡グループ」の事務局を務め、TICADに関するNGO間の情報交換を促進する。	TICADに関わる情報がNGO間で共有され、グループを構成するNGOによる自発的な取り組みの基盤ができる。	
	アフリカに関わる日本のNGO/NPOダイレクティブに掲載された情報のウェブデータベースを更新する。	アフリカに関わる日本のNGOの基本的な情報が更新され、アフリカ関係の日本のNGOの情報を提供できるようになる。	
	会員を中心とした人間同士の交流の場を提供するとともに、アフリカ関係の非営利団体、民間企業、自治体、民間財団などの連携を促進し、ネットワークの拡大に努める。	信頼性に基づいたネットワークの拡大により、アフリカに関わる人々の活動の場の広がり、AJFの活動も強化される。	
③アフリカ調査・研究事業	TICADを含む日本のアフリカ外交・国際協力政策および、アフリカ側の外交・国際協力やSDGs達成に関わる枠組み、また、アフリカ市民社会の動向等に関して調査・研究活動を行う。	日本のアフリカ外交・国際協力やSDGsをめぐる課題が明らかとなり、政策提言や行動につなげられる。アフリカの市民社会の主要なネットワークとの取り組みの基盤が整い、多様なアフリカの関係者との連携が可能になる。	1,580
	メールマガジン「グローバル・エイズ・アップデート」を国際保健にかかわる分野を包括する内容で刷新し、月間発行する。またウェブサイトにも国際保健に関する定期的な記事を発信する。	国際保健に関する市民団体としての調査研究と発信が強化され、アフリカや国際保健に関する適切な情報が社会に供給される。海外の最新情報を提供し、国際的な市民社会ネットワークの知見がより広く活用できるようになる。	
	アフリカの保健・医療に関わる市民社会関係者や専門家、研究者などと連携してセミナーや講座等を開催し(1)市民社会としてのアフリカの保健・医療に関する最新情報や考え方の発信、(2)次世代の育成に取り組む。	研究者・専門家と市民社会の連携・協力が進み、専門的な知見を活用しつつ政策提言等の組み立てができるようになる。次世代のアフリカの保健・医療の政策提言に関心のある人々が関わるようになる。	
	アフリカを含む途上国の多くで拡大する非感染性疾患(NCDs)に関し社会的・経済的・環境的な決定要因の課題を調査し、関係する市民社会ネットワークの動向などの調査・研究を行う。	アフリカなど途上国におけるNCDsの問題が、大気汚染や食生活など、NCDsの原因ともなる要因とともに考えられるようになる。	
	食料安全保障研究会公開セミナー「食べものの危機を考える」をHFV・JVC・PRIMEとの共催で開催する。	COVID-19の影響を含め、アフリカの食と農の課題を考えていく場が作られ、市民社会の連携が図られる。	
	他のNGO、FAO日本事務所、横浜市資源循環局ほかと協力して「世界食料デー」月間の取り組みを進める。	AJFの持つ経験や知識を活かして、他団体とともに、世界の食料に関する課題への理解・行動を広げられる。	
	「FAOの資料を読む学習会」をベースに、食料・農業情報の収集と提供を行ない、ウェブサイトで公開・提供する。	学習会を通して、情報収集を強化するとともに、食と農に関わる活動の入り口として参加を促進できる。	
④政策提言事業	主権や自己決定権を求めるアフリカの人々の取り組みに協力し、TICADプロセスを含む、日本政府の外交・国際協力政策への提言を行う。	主権や自己決定権が脅かされているアフリカの地域や人々・団体等との連携を強化し、運動への協力を広げられる。また、その政策提言や行動のネットワーク基盤が形成される。	2,940
	アフリカを含む世界の疾病構造の変化について、アジア・アフリカの市民社会とともに情報収集し、政策提言を行う。	COVID-19など新興感染症を含め、アフリカを含むすべての人々の保健・医療へのアクセスの実現する。	
	グローバルファンド(世界エイズ・結核・マラリア対策基金)第7次増資会合(2022年)に向け、適切な資金拠出を国内外の団体等と連動して求める。	日本がグローバルファンドに対して2022年末までに誓約金額の840億円を予定通り支払い終え、国としての責任を果たす。	
⑤アフリカ理解促進事業	会報「アフリカNOW」を3~4回発行する。AJFのウェブサイトでも「アフリカNOW」を紹介し、会員以外にも販売する。	アフリカに関わる多様な話題や課題についての報告・分析、AJFの関わりなどを伝える媒体になる。会員へのサービスの提供や会員の継続、会員拡大のツールとして活用できる。	400
	ウェブサイトを更新し、AJFの活動とイベントなどについて紹介するとともに、多様な情報や資料などを提供する。	AJFの目的や活動内容などを具体的かつ広範囲に伝える媒体になり、また、AJFの新たな会員や協力者を募るためのツールとして活用される。	
	アフリカの社会・文化やアフリカに関わるさまざまな課題を取り上げ、話し合い、交流する場(小規模なAJFカフェなど)を作り、数回の企画を実施する。	アフリカに関わる多様な話題や課題への理解を深め、交流する場として活用できる。AJFの活動への参加・協力、入会をよびかける契機になるほか、企画立案・運営を通じて、会員や協力者に活動への参加の機会を提供する。	
	アフリカの健康問題について、東京女子医大国際環境・熱帯医学講座と連携し、アフリカ健康フォーラムを開催する。	アフリカにおける保健課題の最新情報や様々なセクターの取り組みを紹介し、会員・非会員(学生、専門家、NPO関係者、民間会社など)との意見交換の場を持つ。	
	メールマガジン「AFRICA ON LINE」を定期的(隔週)に発行する。	アフリカに関するイベントや現地レポートの情報をより多くの人が得ることができる。	
	国際協力関連のイベントに出展し、主催団体/参加団体と関係を作り、AJFの活動や目的を知らせる。	出展企画立案、運営を通じ、会員や協力者に活動への参加の機会を提供する。アフリカや直面する課題への関心を喚起し、AJFの活動への参加・協力を呼びかける。	

*1. 地球規模問題イニシアティブ(GII)及び沖縄感染症対策イニシアティブ(IDI)に関する外務省・NGO懇談会